Google Workspace 全庁導入の舞台裏:

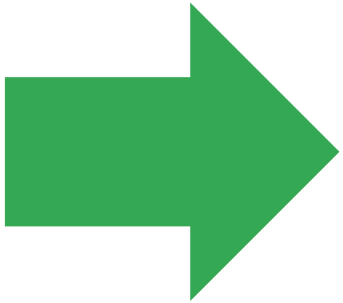
生成 AI が変える、新たな 自治体の働き方と今後の展望

Google Cloud Next Tokyo

Proprietary

伊藤 維（Yui Ito）

Google Cloud
Google Workspace
自治体担当営業

40  330

自治体における Google Workspace 採用 ID 数

23 年 → 2024 年 → 2025 年

40 % 増加

233 % 増加

Google Workspace 導入済みの代表的な自治体様

札幌市
（北海道）

宮城県

秋田
県

足利市
（栃木県）

高崎市
（群馬県）

下呂市
（岐阜県）

志摩市
（三重県）

紀北町
（三重県）

舞鶴市
（京都府）

徳島県

中津市
（大分県）

宮崎市
（宮崎県）

肝付町
（鹿児島県）

自治体職員の皆様のセキュリティと柔軟な働き方を実現するために

コラボレーションツール

Google Workspace

AI が組み込まれたクラウド型のコラボレーションツール、グループウェア。

ブラウザ管理

chrome enterprise

従業員の Chrome ブラウザの設定やポリシーを一元管理。ブラウザ上の機密データ保護、ブラウザベースのアクセス制御や URL フィルタリングなどにも対応。

端末・OS 管理

chromeOS

IT 管理者が組織で利用する各従業員の ChromeOS デバイスを、管理・統制するためのライセンス。

Google Workspace チームでの仕事を支えるコラボレーション環境

- 生成 AI
- コミュニケーション
- コラボレーション
- リモートワーク
- 高度な管理機能と セキュリティ

“業務に必要な機能を 1 か所に ”

働き方の変革を AI の力で加速！

Google Cloud が目指すのは

AI for Everyone
すべての自治体職員様に AIの力を！

- Gemini アドオン (3400 円 / 月) を購入頂く必要がなくなりました -

これまでは 計 6,460 円

Google Workspace ＋ Gemini

3,060 円　　3,400 円

現在は 3,060 円 のみ

Google Workspace
Gemini

3,060 円

Gemini がもたらす投資対効果

Google の調査では、生成 AI による生産性向上で週 105 分/人の作業時間が節約可能。

→ 1,000 人のチームでは、**年間 2.1 億円の削減効果** ※社員年収 500 万円 / 人と仮定

3,000 人以上の Google Workspace で Gemini を試験的に利用したユーザーへのアンケート調査結果

週当たり

105 分

時間削減が可能に

77%

のユーザーが
生成 AI の無い生活に
戻れないとコメント

Gemini / NotebookLM の業務効率化の効果は無限大！

Gemini

2.5 Pro

エンタープライズ モード

Viewing PREPROD. This version is internal only. Don't share public links to responses with unreleased features. To file a bug: go/report-gemini-bug-preprod. You are also using ENTERPRISE MODE, so some features may not be available go/gemini-enterprise-mode.

To enable sherlog: go/enable-gemini-sherlog-sharing.

元気に踊りながら「皆さん、本日はよろしくおねがいしますー！」と発声して

思考プロセスを表示

写真を追加

動画の説明を入力

動画 Deep Research Canvas 画像 ガイド付き学習

Google のチャットはモデルの改善には使用されません。Gemini は不正確な情報を表示することがあるため、生成された回答を再確認するようにしてください。プライバシーと Gemini

Veo

自治体を支援する長期的な取り組み

秋田県様、札幌市様と連携協定を締結し、長期的な DX推進をご支援

Proprietary

Google Workspace と生成 AI で刷新

秋田県の挑戦

伊藤　隼人

秋田県庁
企画振興部
デジタル政策推進課
主査

秋田県のご紹介

秋田県の取り組み

Chromebook

- 280 台導入 & 各課配布
- Grab & Go 整備

Google Workspace

- PoC 実施
- 都道府県初の全庁導入
  （5,000 ライセンス）

生成 AI

- 生成 AI 活用ガイドライン改正
- Gemini アプリ
- NotebookLM
- Vertex AI

Google Workspace の実証（ PoC ）

多様な働き方に対応し、快適で生産性の高い業務環境の実現のため、プロジェクト チームを立ち上げ、コラボレーション ツールの導入による効果検証およびツールの比較を実施

▼効果検証

【対　象】1,200 名（知事部局＋教育委員会）　【期　間】2024 年 6 月から 9 月まで

【内　容】コラボレーションツールの導入効果、製品比較

コラボレーション ツール導入による効果

コラボレーション ツールの導入

before	業務環境へのアクセスは 職場 PC のみ	打合せは 対面・紙が原則	連絡は 固定電話が中心
after	マルチデバイスによる 業務環境アクセス	ハイブリッド（WEB・対面）ペーパーレスを原則とする 会議スタイル	チャットを中心とする 非同期※・テキストベースの コミュニケーション

※送信者と受信者がリアルタイム で
繋がらずにやりとりができる状態

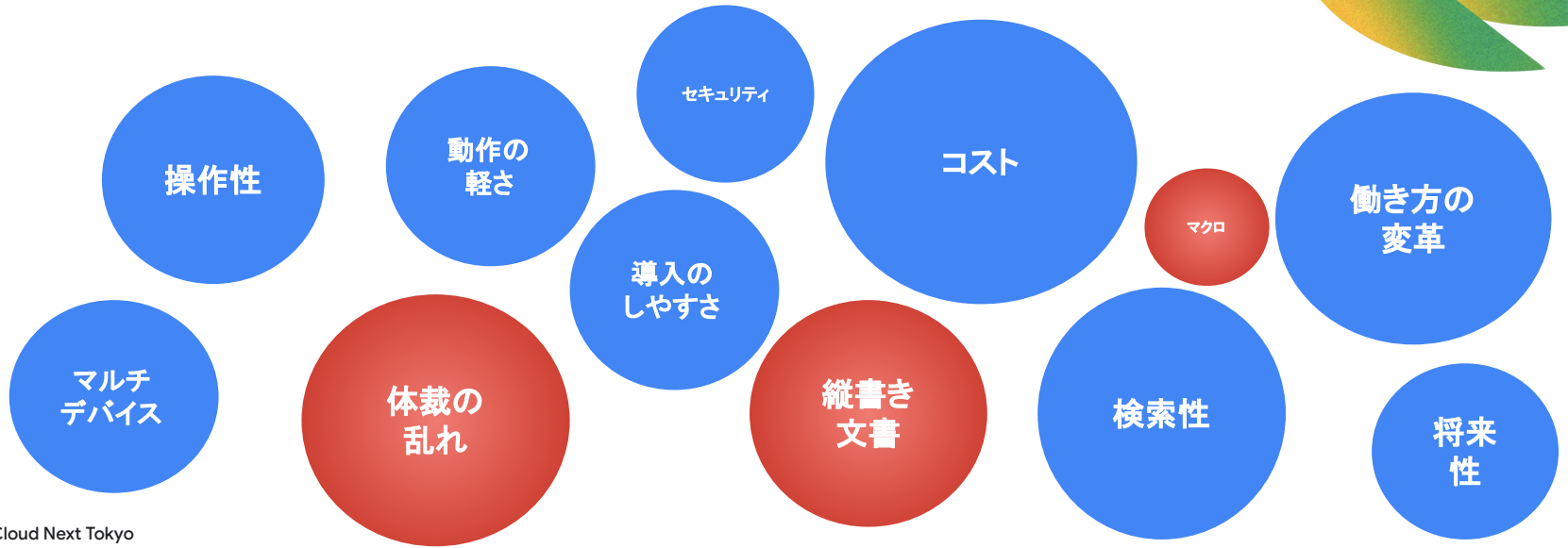
参考）評価シート

ツール評価

回答	分類	評価項目	補足
共通	全般	基本機能の充実度	メール、カレンダー、チャット、ビデオ会議、ファイル共有など、必要な機能が網羅されているか。
	操作性・使いやすさ	ユーザーインターフェース	直感的で使いやすいデザイン・UIとなっているか。
		導入のしやすさ	初期設定やユーザーへの教育が簡単に行えるか。
		ユーザーエクスペリエンス	全体的な操作性や利便性（起動の速さ、サクサク動くか等）、ユーザーからのフィードバックはどうか。
	フレキシブルワークの実現度	マルチデバイスからの業務データへのアクセス	PC、スマートフォン、タブレットなど複数のデバイスからデータへアクセスし、閲覧や編集が可能か。
		モバイルデバイスでのコミュニケーション	モバイルデバイスからチャット・電話・カレンダー・ＷＥＢ会議を使用して、円滑にコミュニケーション可能か。
	リモートワークの実現度	オンラインでの会議・資料編集	WEB会議・同時編集機能等により、オンラインにおいても登庁時と同等の業務ができるか。
		ステータス機能による在籍確認	スケジュール情報がステータスに反映され、相手の在籍状況がわかる。
	プロジェクトワークの実現度	コラボレーション機能	資料作成にあたり、リアルタイム共同編集を快適に行えるか。（様式崩れ・編集ログ・アクセス権限）
		リンク共有	リンク共有の方法がわかりやすいか、公開・非公開の範囲設定がしやすいか。
		クラウドベースでのコミュニケーション	チャット、ビデオ会議、カレンダー、ストレージ等がシームレスに連携し、クラウドベースでの快適なコミュニケーションが可能か。（ファイルのリンク切れが発生しない）
		フォルダ・ファイルの管理	ファイルの一意性が担保されるか（内容が同じファイルが複数存在することがないか）、階層を作り管理しやすいか
		プロジェクト管理	タスク管理やプロジェクト管理に必要な機能が内蔵されているか。
	機能性 / 既存ツールとの代替性	グループウェア	各種機能の代替は可能か。また、操作性・機能性は十分か。（スケジュール、掲示板、ワークフロー、施設予約、タイムカード、キャビネット）
		チャットツール	〃（グループトーク、ノート、ファイル共有、モバイル対応）
		WEB会議	〃（スムーズな動作、UIのわかりやすさ、各種機能（チャット・画面共有・文字起こし・レコーディング））
		ノーコード	〃（データベースの設計、UIのわかりやすさ、他ツールとの連携部分、蓄積

製品比較結果

製品比較を行った結果、製品ごとの得意不得意はあるものの、トータルで評価が高かった Google Workspace の採用を決定



セキュリティ要件の確認

「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」から抜粋

対策区分	セキュリティ対策	概要	確認
技術的対策	接続先のクラウドサービスの証明書による認証	・接続先のクラウドサービスが本物であるか否か、正当性を確認する。	☑
	マルウェア対策ソフト	・パターンマッチング方式や、不審な動作を行うコードが含まれていることを検出する振る舞い検知などにより、不正プログラム対策を行う。	☑
	:	:	
	ローカルブレイクアウトテナントアクセス制御	・利用するクラウドサービスへのアクセスを自らの団体が利用するテナントのみに制限する。	☑
	:	:	

α’ モデルの採用

α' モデルと BYOD の活用

既存ツールから機能・データ移行を実施中

機能	R6 年度	R7 年度				R8 年度
		第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	
チャット	LoGo チャット	Google チャット				
ウェブ会議	WebEX	Google Meet				
グループウェア	desknet's NEO	Google Workspace				
スケジュール		Google カレンダー				
メール					Gmail	
設備予約 キャビネット 掲示板　等		データ移行 Google カレンダー		Google ドライブ	等	

Proprietary

知事・副知事も活用

知事の動画メッセージ

副知事のサイトでの情報発信

Proprietary

生成 AI の活用

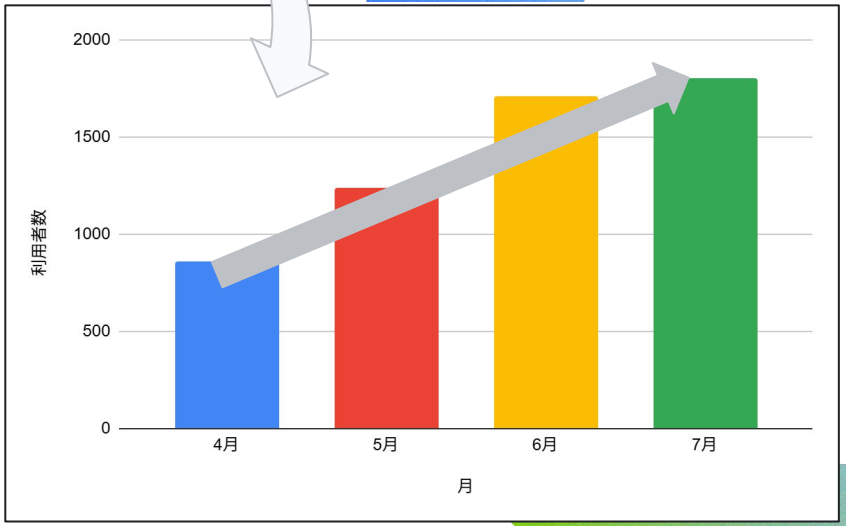
（令和７年度導入）職員向け生成ＡＩサービスの概要

アプリ名	コラボツール内 Gemini	コラボツール内 NotebookLM
性能区分（プラン）	Gemini Advanced	NotebookLM
特長	• 会話形式にて文章、画像を生成	• 読み込ませた資料ファイルを基に文章を生成 • 録音データを読み込ませ文字起こしデータを生成
主な 活用方法	• アイディア創出 • 文章要約、校正 • あいさつ文、翻訳、関数等作成	• 資料ファイルに基づく通知文作成 • 録音データからの議事録作成
留意事項	• 無償版のものは扱いが異なるため注意	• 読み込めるファイル数に上限がある • 無償版のものは扱いが異なるため注意

～コラボツール内生成ＡＩ(Gemini、NotebookLM)利用における、生成ＡＩ利用ガイドラインとの相違点～

- **自治体機密性3B以下**の情報は入力可能です。
- 個別具体の質問に**マスキング**する必要はありません。

（**クラウドサービス（生成ＡＩ）の利用申請**は必要ありません。）



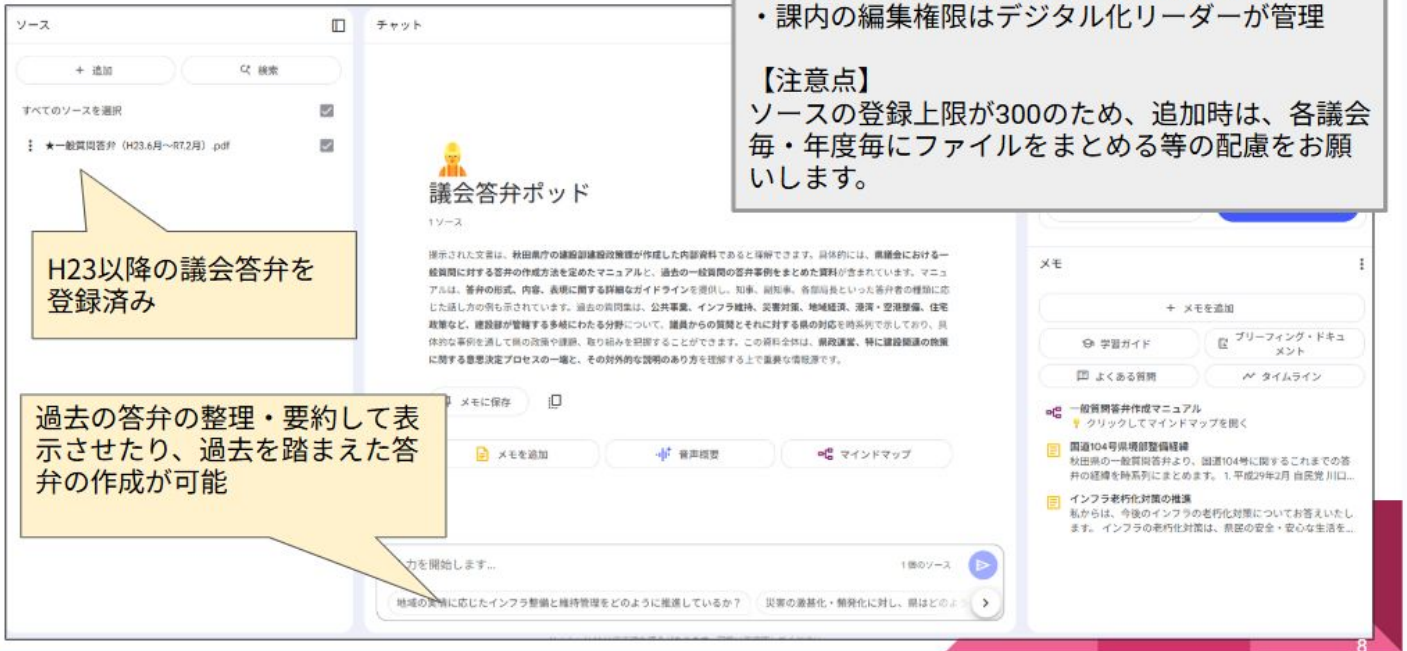
生成 AI 活用ガイドライン改正

議会答弁への活用（実証中）

（1）NotebookLMの活用例

※部全体に共有します。
・編集権限はデジタル化リーダーに付与
・課内の編集権限はデジタル化リーダーが管理

【注意点】
ソースの登録上限が300のため、追加時は、各議会毎・年度毎にファイルをまとめる等の配慮をお願いします。



議事録作成の省力化

打ち合わせ実施

▼

文字起こし

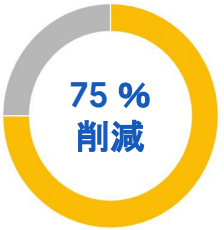
▼

要約・整形

従来のやり方

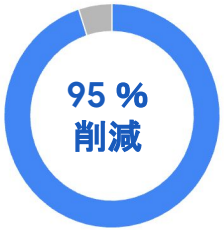
すべて手作業

基本的な AI 支援



文字起こしを従来の AI を活用した
ツールで自動化。
要約・整形は手作業

NotebookLM 活用



音声ファイルをアップロードすることで生
成 AI が文字起こし、要約を実施
手作業は整形のみ

Google Meet 活用

会議終了と同時に、文字起こしと
要約が完成
手作業は整形のみ

利用者の声

- 挨拶文や状況分析、アイデアの玉だしなど活用方法は沢山あると感じている。
- 生成 AI を使う人と使わない人で圧倒的に仕事の差がでてくると思う。
- あまりにも生成 AI に頼りすぎて自身での思考が疎かになってしまうのではないか。
- 利用者本人やその上司も含め、内容のファクトチェックをどのように行うかが課題。

Proprietary

札幌市が挑む自治体 DX
Google Workspace と生成 AI で変革する働き方

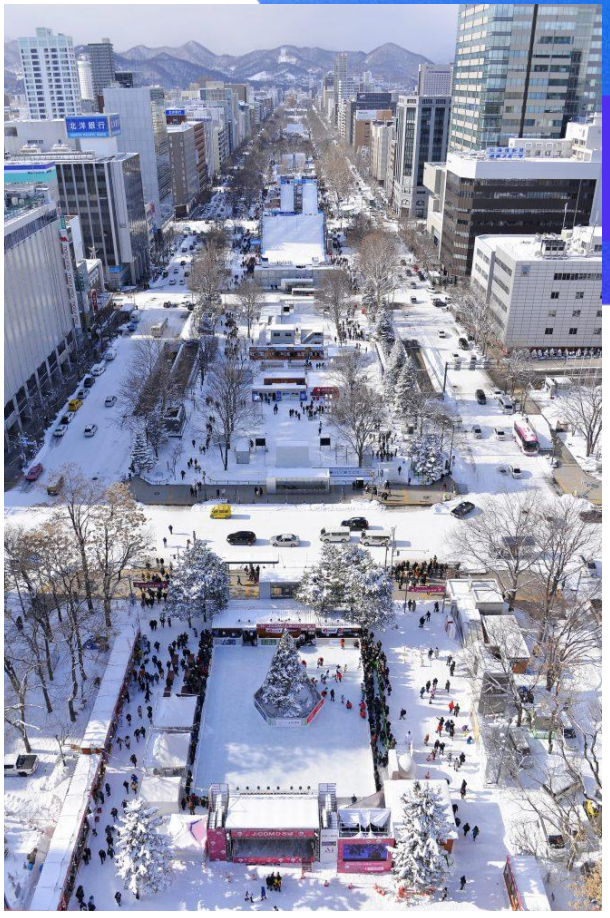
坪谷　賢一

札幌市役所
デジタル戦略推進局
情報システム部
システム調整課
内部システム担当係長

札幌市のご紹介

SAPPORO

- 人口約 196 万人を擁する、北海道の中核都市。観光、商業、医療、教育など多岐にわたる機能が集積
- 政令指定都市であり、広大な面積と豊かな自然が特徴
- 冬季の平均積雪量は約 5 メートル
- 札幌雪まつり、大通ビアガーデン、PMF、北海道マラソンなどのイベントが有名



札幌市の ICT 環境が抱える課題と β' モデルへの移行

従来の ICT 環境の課題（α モデル）

- クラウドサービスが活用できない
- デスクトップ型 PC が大半、有線 LAN で机上に固定
- 紙ベース、書類完成してからハンコリレー、隣は何をする人ぞ
- オフィスソフトを含むグループウェアのライセンス料の増嵩

課題解決に向けた β' モデルへの移行の必要性

- インターネット接続環境の利用（通称「 **NEWSネット** 」: NEw Work Style ネット）
- 自由度の高いコミュニケーションの実現と働き方の変革を志向
- 庁内 LAN は有線から無線へ、パソコンはデスクトップからノートへ
- 庁外ではモバイルルータを利用、BYOD も全職員で利用可能にし、ペーパレスを原則に

新規グループウェア選定の考え方

ゼロベースでの検討

- インターネット接続環境で使用するグループウェア

セキュリティ

- インターネット接続を前提にしたレベルのセキュリティ

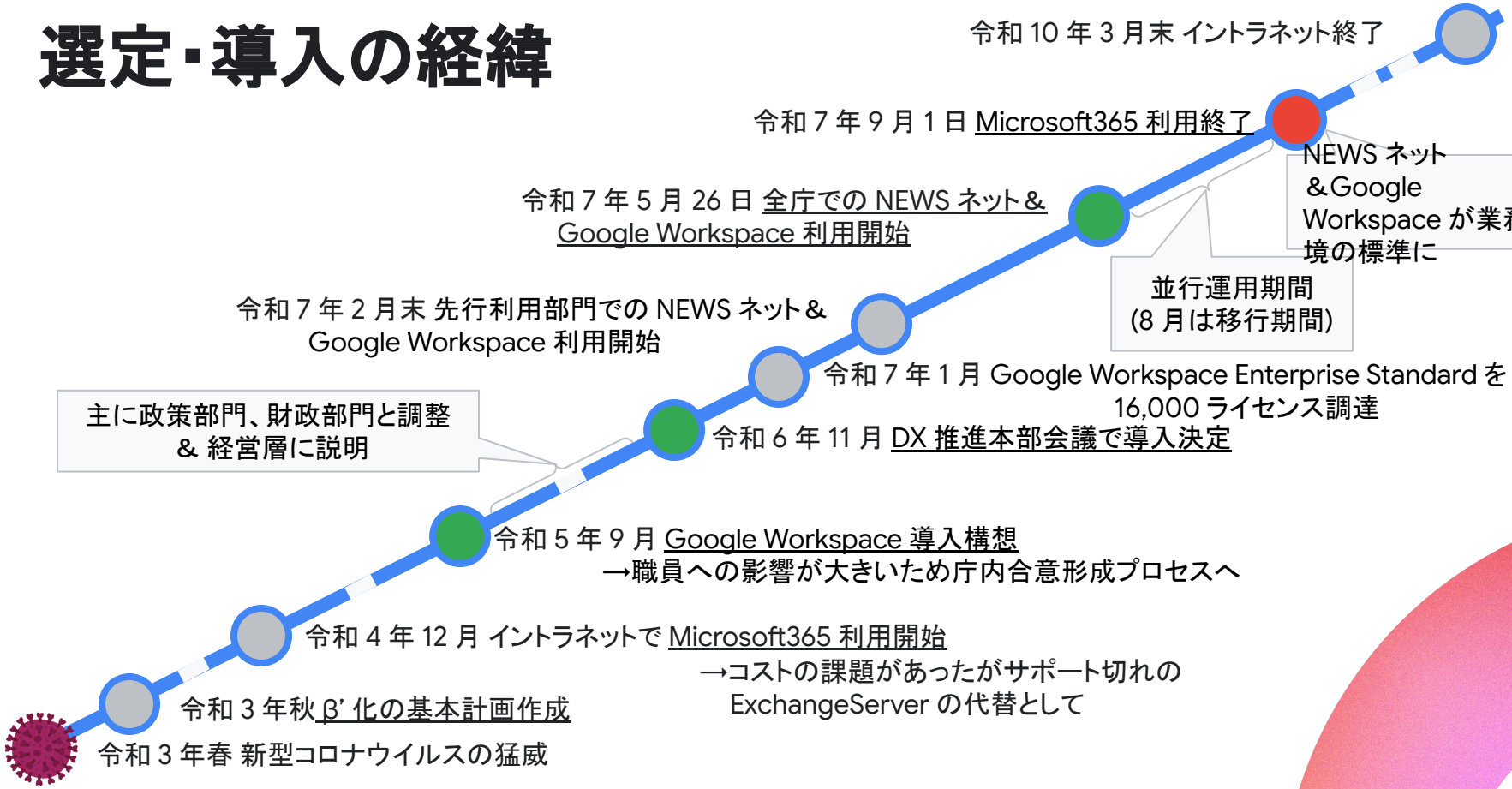
持続可能なコスト

- ライセンスコストの増嵩の改善

「働き方の思想」そのものを変えるための強力なツール

Google Workspace を選定

選定・導入の経緯


令和 10 年 3 月末 イントラネット終了
令和 7 年 9 月 1 日 Microsoft365 利用終了
NEWS ネット＆Google Workspace が業務環境の標準に
令和 7 年 5 月 26 日 全庁での NEWS ネット＆ Google Workspace 利用開始
並行運用期間 (8 月は移行期間)
令和 7 年 2 月末 先行利用部門での NEWS ネット＆ Google Workspace 利用開始
令和 7 年 1 月 Google Workspace Enterprise Standard を 16,000 ライセンス調達
令和 6 年 11 月 DX 推進本部会議で導入決定
主に政策部門、財政部門と調整 ＆ 経営層に説明
令和 5 年 9 月 Google Workspace 導入構想
→職員への影響が大きいため庁内合意形成プロセスへ
令和 4 年 12 月 イントラネットで Microsoft365 利用開始
→コストの課題があったがサポート切れの ExchangeServer の代替として
令和 3 年秋 β' 化の基本計画作成
令和 3 年春 新型コロナウイルスの猛威

Google Workspace の期待と不安

β’ モデルでの働き方とセキュリティ対策

- フルクラウドであり、情報共有と協働による働き方に適している
- ブラウザにアタックサーフェスを局所化することでゼロトラストアーキテクチャを実現

コストの改善

- 現行グループウェアにゼロトラストアーキテクチャ製品を加えたライセンス費用と比べ、GWS＋CEP(Chromebook)とすることでライセンスコストは5 年間で 30% 以上の削減

Office ソフトの変更による不安への対応

- 業務上 MS Office が必須の場合は自部門経費で購入・利用が可能という整理に
- 結果的に 1 割が LTSC 2024 を購入したほか、単品での Excel 購入が発生したが、コスト試算範囲内

札幌市の目指すワークスタイル

SAPPORO New Work Style

「NEWS ネットを活用した札幌市の新しい働き方ガイド」を作成

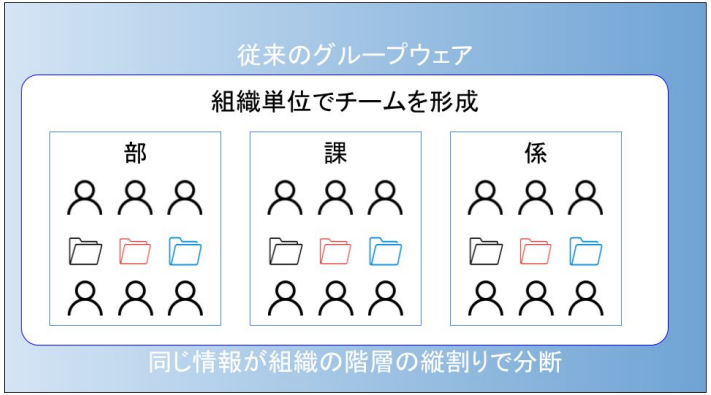
◎最先端の業務環境　◎業務効率向上の指向

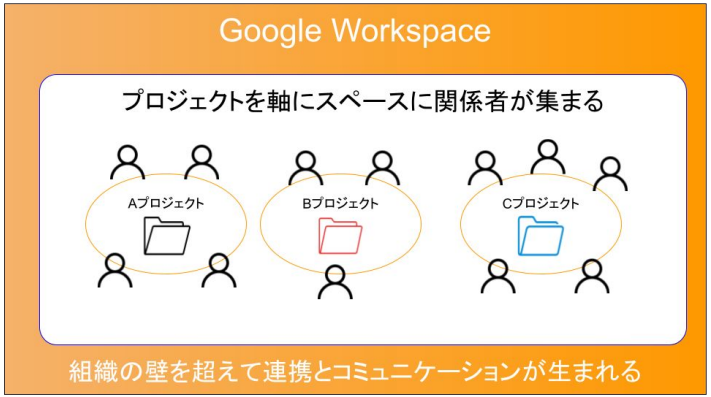
◎職員の意識改革　◎新たな組織文化の醸成

- 「NEWS ネット」という新たなインターネット接続系ネットワークと「Google Workspace」により、最先端の業務環境を構築し、業務効率化を志向する働き方へ
- 従来の考え方を刷新し、全職員に対し新環境を活用した新しい働き方を理解・実践するよう意識改革を促す
- 組織横断的な情報共有と協働を推進し、職員の創造性と自律性を尊重する新たな組織文化を醸成

Google Workspace を活用したワークスタイル

ペーパーレス化の推進	● 電子文書の活用による印刷・保管コストの削減、検索性の向上 ● クラウドストレージとリアルタイム共同編集で、いつでもどこからでも情報に迅速にアクセス・更新・共有し、業務を効率化
柔軟な働き方の実現	● チャットスペースや Meet による時間や場所にとらわれない業務の推進 ● フルクラウドを活用した（ファイルの保存場所にとらわれない）、在宅勤務等の多様な働き方を支援
情報共有の促進	● 共同編集やリアルタイム連携による意思決定と業務遂行の迅速化 ● 個人や部門を超えたドライブ公開による情報共有とアイデアの創出
コミュニケーションの進化	● チャットや Meet を活用した迅速かつ円滑なコミュニケーション ● カレンダーを活用した調整労力の削減
AI の活用による生産性の向上と創造性の発揮	● Gemini（Deep Research、Canvas 含む）、NotebookLM の活用 ● 個人の工夫にとどまらず、マネジメントを通じて組織的な取り組みや成果に繋げていく





先行利用部署における ワークスタイルの変化

業務体制の変化

「組織(課)単位のチーム」

↓

「タスク単位のスペース」

縦割り分断型組織がプロジェクトセントリックに活動する「課題解決型組織」に変化

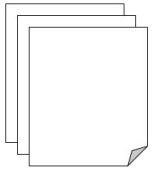
先行利用部署における ワークスタイルの変化

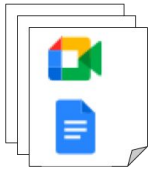
Google Drive

Google Meet

Gemini

NotebookLM





会議のカタチの変化

- 会議のアジェンダ、資料は Google Drive で事前共有
- Meet で資料を画面共有、共同編集、録画
- 議事録と会議のまとめ資料は Gemini や NotebookLM で自動生成
- 議事録や資料はデータとして蓄積し、Gemini で分析して活用

会議が、単なる情報共有からクリエイティブな活動に

利用者の声！

- 動きは軽い！検索も一瞬！すこぶる快適！
  →アプリ起動待ちや画面表示待ちでイライラせずに済む
- Gemini は常に傍に置いておく（使ったらやめられない）
- Office 互換については、正直いまいち
  →我慢して使う＆「そこが本質じゃない」という頭の
  切換えで対応
- 極たまに動作がおかしくなるので、「 F5」が癖になりそう

札幌市の生成 AI への取り組み

2023 年 12 月:**「札幌市生成 AI 利用ガイドライン群」策定**

・今後、一定の条件の下で生成AI で個人情報を扱える方向へ改定を予定

2024 年 6 月～:**庁内生成 AI 研修実施**（職員内製で定期的に開催）

・入門編とプロンプトエンジニアリング実習編の2 種類

・1 年間で合計 61 回開催し、のべ2,000 名以上が受講

2025 年 4 月:**組織として生成 AI の業務活用に関する RFI を実施**

・25 社から情報提供あり

2025 年 7 月:**SAPPORO CO-CREATION GATEで課題解決提案を募集**

・テーマ:生成 AI 及び AI エージェント活用による行政内部事務（旅費事務）の効率化・高度化

生成 AI 利用現場の状況と業務の変革

Microsoft 365 E3 で Copilot チャットが利用可能 (2024 年 4 月～)

- 研修でリテラシーを底上げしつつ、個人利用を中心に展開

Google Workspace 環境下でも、同程度の活用を想定したが ...

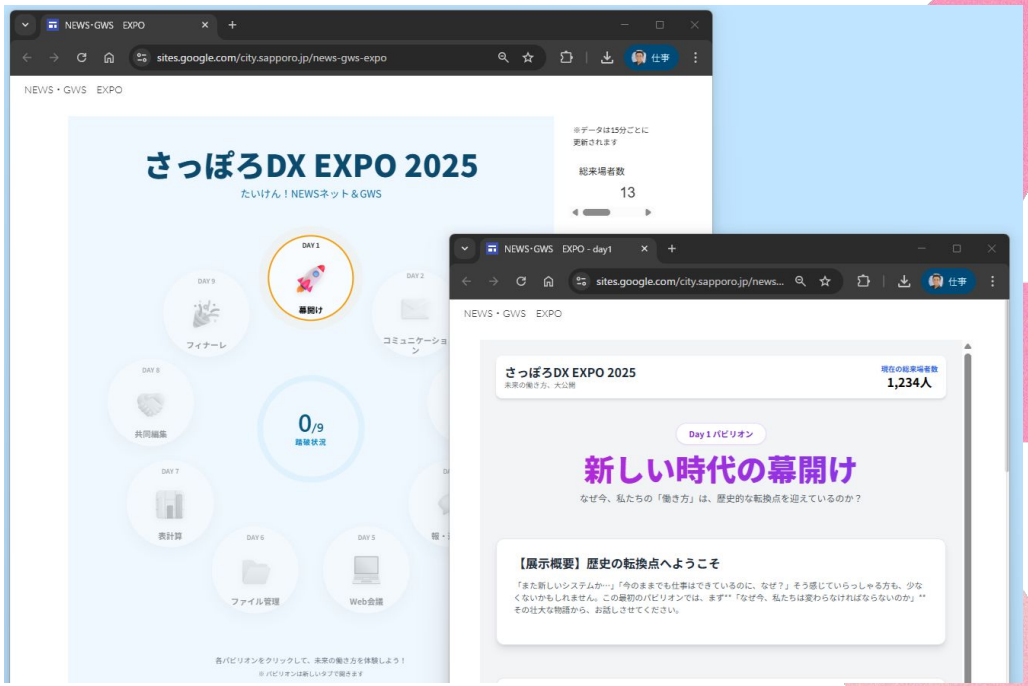
- Gemini でのチャット利用が可能 → ひとまずその線で
- ライセンス調達直前に、Google Workspace with Gemini が標準搭載！！NotebookLM も利用可能に！

先行利用段階から、情報システム部をメインにフル活用中

- Meet の要約、議事録作成、ポッドキャスト共有(NotebookLM)
- 専門家並みの分析・レポートの入手(Deep Research)
- ドキュメントやプレゼン資料の作成支援(このスライドも)
  (Google Workspace with Gemini)
- 従来どおりの壁打ちや画像生成だけではなく、職員による簡易アプリ作成も！(Gemini 2.5 Pro、Gem、Canvas)

生成 AI 利用の成果例

- Gemini への指示、Canvas 利用
- 30 分程度でプロトタイプ完成



- Gemini に相談→特設サイト作成を提案
- Gem、Canvas 利用し、5 時間程度でモックアップ完成
- Gemini とコンテンツを作り、1 人月未満でサービス開始

まとめ

- Google Workspace 導入により、コスト削減とセキュリティ強化を実現
- Google Workspace で働き方を変革していく
- 生成 AI を活用し、業務効率向上と市民サービス向上に取り組む

SAPPORO

Proprietary

パネルディスカッション

既存の Office ツールと Google ドキュメント (Sheet/Slide/Docs) の 移行状況や併用方法を教えてください。

Proprietary

Google Workspace の導入検討に当たって、以下 2 点を教えていただけないでしょうか。

1. 比較の観点と検証の進め方
2. 庁内合意形成のプロセスと重要視されたこと